

函南町軽井沢メガソーラー関連のマスコミ報道 2019

2020/7/5

メガソーラー反対（伊豆日日新聞 2019 年 6 月 24 日版） ダイヤランド区民の会 組織立ち上げ来月集会	5
ただいま！テレビ「函南にメガソーラー計画 反対署名」 （テレビ静岡 2019 年 7 月 3 日放送）	6
静岡県函南町のメガソーラー計画、反対住民が署名提出 （日本経済新聞 2019 年 7 月 3 日版）	6
函南のメガソーラー計画、住民が反対署名提出 （朝日新聞デジタル 2019 年 7 月 4 日版）	7
知事へ反対署名提出（伊豆日日新聞令和元年 7 月 4 日） 住民の会「災害の危険高い」	8
とびっきり！しずおか 特集 15 分（静岡朝日テレビ 2019 年 7 月 5 日放送） 函南に新たなメガソーラー計画 小学校など近く住民は反対運動	9
おはよう静岡「函南町「メガソーラー」県が開発許可」（NHK2019 年 7 月 11 日放送） FRONT zero「メガソーラー反対集会」（Daiichi-TV 2019 年 7 月 14 日放送）	10
仁科町長「不同意貫く」（伊豆日日新聞 2019 年 7 月 20 日版） 全協で方針強調、理解訴え 「住民パワーも必要になる」	11
区長ら「不同意」訴え 柿沢川治水組合（伊豆日日新聞 2019 年 7 月 30 日版） 柿沢川治水組合 町と議会へ陳情、請願	12
函南メガソーラー「反対姿勢 明確に」（伊豆日日新聞 2019 年 8 月 1 日版） 軽井沢区・ダイヤランド 署名 6259 人、町に陳情	13
（湧水）函南・軽井沢のメガソーラー計画（静岡新聞 2019 年 8 月 7 日版） 業者に明確な対応要求を	14
函南メガソーラー「条例適用難しい」なぜ？（伊豆日日新聞 2019 年 8 月 14 日版） 軽井沢区とダイヤランド 町に質問状提出	15
函南でメガソーラー反対集会（静岡新聞 2019 年 8 月 19 日版） 住民「条例適用は可能」	16
役員「条例適用は可能」（伊豆日日新聞 2019 年 8 月 19 日版） 函南メガソーラー考える会 住民が 2 回目の集会	16
知事に許可取消し要望（伊豆日日新聞 2019 年 8 月 20 日版） 反対住民が上申書提出	17
メガソーラー計画 質問に回答（静岡新聞 2019 年 8 月 31 日版） 函南町「条例適用できず」	18

函南町メガソーラー住民質問状に回答（伊豆日日新聞 2019 年 8 月 31 日版） 「条例、遡及適用できない」	18
町が環境コンサル活用へ（伊豆日日新聞 2019 年 9 月 4 日版） 県アセスメント条例「対象事業になる」 メガソーラー特別委設置を可決 町議会開会 請願 2 件を付託	19
函南のメガソーラー計画（静岡新聞 2019 年 9 月 11 日版） 町議会も反対決議へ	20
函南・メガソーラー町議会特別委員会（伊豆日日新聞 2019 年 9 月 11 日版） 「議会での反対」「不同意」住民請願 2 件を採択	21
「議会での反対」「不同意」請願（伊豆日日新聞 2019 年 9 月 14 日版） 町議会、全会一致で採択	22
メガソーラー計画で函南町議会（静岡新聞 2019 年 9 月 14 日版） 反対、不同意決議文作成へ	22
条例適用見解など質問（静岡新聞 2019 年 9 月 20 日版） 函南・軽井沢区 ダイヤランド区 メガソーラー巡り町に	23
函南・軽井沢メガソーラー「納得できる説明を」（伊豆日日新聞 2019 年 9 月 14 日版） 地元区長ら町に質問・要望書	23
住民団体が街頭運動（静岡新聞 2019 年 10 月 1 日版） 函南軽井沢のメガソーラー 町条例全面適用訴え	24
あの函南町揺るがす「危ないメガソーラー」（FACTA 2019 年 10 月号） 「元地上げ屋」の開発業者が脆い急傾斜地で太陽光発電所計画。規制条例も適用外に。	25
メガソーラー森林開発（伊豆日日新聞 2019 年 10 月 1 日版） 函南・軽井沢地区にパネル 10 万枚計画	26
函南町議会 建設反対決議を可決（伊豆日日新聞 2019 年 10 月 5 日版） 軽井沢計画検討委「環境、景観の悪化懸念」 仁科町長にう文書提出「大変重く受け止める」	27
メガソーラー反対決議案など可決（静岡新聞 2019 年 10 月 5 日版） 函南町議会定例会	27
台風 19 号被災「放水路いかに重要か」（伊豆日日新聞 2019 年 10 月 21 日版） 川勝知事「基本的には反対」函南のメガソーラー計画	28
函南メガソーラー 知事「基本的に反対」（静岡新聞 2019 年 10 月 21 日版） 法規制、国へ働きかけ 「中止のためのアイデアなし」函南町長が見解	29
函南メガソーラー計画（伊豆日日新聞 2019 年 10 月 24 日版） 町民が建設予定地視察	29
反対署名 1 万 3000 人（静岡新聞 2019 年 10 月 26 日版） 考える会が知事宛て提出	30

函南メガソーラー署名 1.3 万人分提出（伊豆日日新聞 2019 年 10 月 26 日版） 反対団体、副知事に	30
「町条例適用 審議を」（静岡新聞 2019 年 11 月 6 日版） 地元区 函南議会に請願書提出	31
軽井沢区の反対意向賛同（静岡新聞 2019 年 11 月 8 日版） メガソーラー計画 函南町区長会 署名提出	32
町区長会が反対に賛同（伊豆日日新聞 2019 年 11 月 8 日版） 4462 世帯の署名添え町に提言	33
町の反対要望 県に提出（伊豆日日新聞 2019 年 11 月 15 日版） 難波副知事「地域全体の意向大切」	34
不適切な事務処理（伊豆日日新聞 2019 年 11 月 28 日版） 函南町が職員ら 4 人処分	35
丹那で町長と語る懇談会（伊豆日日新聞 2019 年 11 月 30 日版） メガソーラーに意見	35
「森を守れ」移住者からうねり（朝日新聞 2019 年 12 月 1 日版） 函南・別荘地近くのメガソーラー計画	36
メガソーラー請願など付託（伊豆日日新聞 2019 年 12 月 3 日版） 函南議会が開会	37
「条例改正考えていない」（伊豆日日新聞 2019 年 12 月 5 日版） 軽井沢メガソーラーで町答弁	37
函南町議会総務建設委（伊豆日日新聞 2019 年 12 月 7 日版） 軽井沢メガソーラー建設 不同意の請願不採択	38
メガソーラー建設阻止を（伊豆日日新聞 2019 年 12 月 14 日版） 共産党函南委 町に予算要望	38
トーエネック地元住民と初の面会（伊豆日日新聞 2019 年 12 月 17 日版） 函南・軽井沢メガソーラー「法令守り事業進めたい」	39
メガソーラーの反対住民と面会（朝日新聞 2019 年 12 月 17 日版） 函南 売電計画の業者	40
函南のメガソーラー計画（朝日新聞 2019 年 12 月 20 日版） 伊豆の国市長が反対を明言	40
SBS ニュース「函南町長らを県警に告発」（SBS テレビ 2019 年 12 月 20 日放送） 町内で計画中のメガソーラー建設めぐり ウソの公文書作成か	41
メガソーラーで函南町長を告発（朝日新聞 2019 年 12 月 21 日版） 虚偽の日付文書掲示	41
太陽光発電反対派 函南町長らを告発（静岡新聞 2019 年 12 月 21 日版） 虚偽公文書作成疑い	41

函南町長らを告発（伊豆日日新聞 2019 年 12 月 21 日版） 虚偽公文書の作成・行使疑い	42
函南の太陽光に沼津市長が懸念（朝日新聞 2019 年 12 月 26 日版） 町長に協議求める考え	43

会合であいさつする吉原会長＝函南町
平井のダイヤモンドホール

伊豆日日新聞

伊豆日日新聞
（昭和38年6月24日）

令和元年6月24日

メガソーラー反対

ダイヤランド
区民の会 組織立ち上げ来月集会

函南で役員説明

函南町の南端、ダイヤランドの自然豊かな一角に、区民を中心に約160人が集まり、ダイヤランドの隣接地と経営者らによる「メガソーラー」の是非を問う会合を開いた。この会合で、区民の会「ダイヤランド区民の会」（吉原英文会長、85の世帯）は、メガソーラー（大規模太陽光発電所）の計画について、役員が計画を説明した。今後、集まった区民らを中心とした組織を立ち上げ、署名活動などを行うこととしている。7月中旬に反対集会を開く予定だ。何の説明もなく決まらず、区民の意見を聞きながら進められている。

「メガソーラー」は、大規模太陽光発電所を指す。通常、10万平方メートル以上の敷地に、太陽光パネルを敷き詰める。この計画では、ダイヤランドの隣接地に、太陽光パネル5819枚を設置する。また、メガソーラー、軽井沢地区では太陽光パネル10万1920枚を設置する計画が民間により進められている。

ただいま！テレビ「函南にメガソーラー計画 反対署名」（テレビ静岡 2019 年 7 月 3 日放送）



静岡県函南町のメガソーラー計画、反対住民が署名提出（日本経済新聞 2019 年 7 月 3 日版）

International

設定 ログイン 記事読み

日本経済新聞

2019年7月4日（木）

トップ 経済・政治 ビジネス マーケット テクノロジー 国際・アジア スポーツ 社会 地域 オピニオン 文化 マネー ライフ

ストーリー 速報 朝刊・夕刊 日経会社情報 人事ウォッチ Myニュース

静岡県函南町のメガソーラー計画、反対住民が署名提出

南関東・静岡
2019/7/3 20:14

保存 共有 印刷 翻訳 その他

静岡県函南町の経井沢地区で計画されている大規模太陽光発電施設（メガソーラー）について、反対する住民らが3日、静岡県庁を訪れ、森林法に基づく林地開発許可を出さないよう求める署名を川勝平太知事あてに提出した。住民代表の山口雅之氏は「住宅地や小学校に近く、開発により土砂崩れなどの危険性が高まる」と訴えた。

署名数は2225筆。県や函南町によると事業者はブルーキャピタルマネジメント（東京・港）。65ヘクタールの土地に出力40メガワットの発電施設を建設する。

事業者から林地開発許可申請が2018年10月末に提出され、県は19年3月に森林審議会を開催した。5月29日付で仁科喜世志函南町長からの意見を受けており、県は標準的な審査期間の40日以内に開発許可の判断を出す予定。

アクセスランキング

一覧 >

1. 日経企業とも身構え 輸出規制4日に発動 品
2. リセット金融営業(上) 「股ノルマ」いばらの道 品
3. ヤフー、「信用スコア」売上で買収した信用 品

函南のメガソーラー計画、住民が反対署名提出（朝日新聞デジタル 2019 年 7 月 4 日版）

[トップニュース](#)
[スポーツ](#)
[カルチャー](#)
[特集・連載](#)
[オピニオン](#)
[ライフ](#)
[朝夕読紙面・be](#)
[MY朝デジ](#)

[新着](#)
[天声人語](#)
[社会](#)
[政治](#)
[経済・マネー](#)
[国際](#)
[テック&サイエンス](#)
[環境・エネルギー](#)
[地域](#)
[朝デジスペシャル](#)
[写真・動画](#)

朝日新聞デジタル > 記事

[新聞宅配申し込み](#)
[デジタル申し込み](#)

静岡）函南のメガソーラー計画、住民が反対署名提出

有料記事
阿久沢悦子 2019年7月4日03時00分

[シェア](#)
[ツイート](#)
[ブックマーク](#)
[スクラップ](#)
[メール](#)
[印刷](#)

函南町のメガソーラー計画をめぐる住民らが土屋優行副知事に反対署名を提出した＝県庁

静岡県 函南町に建設が計画されているメガソーラーについて、反対する住民団体が3日、2225人分の署名を添えて土屋優行副知事に陳情した。建設場所は土砂災害の危険地域にあたり、近くに小学校があることなどから住民の不安は強い、としている。

事業者はブルーキャピタルマネジメント社（東京）。町に提出された事業計画によると、建設予定地は同町 軽井沢 の山林約65ヘクタールで、発電容量は4万キロワット。昨年10月31日に県に林地開発許可申請が出された。町からの慎重審査を求め

2千万円問題の核心は「老後に2千万円の蓄えが必要」

議論呼んだ報告書をおさらい

[今日の有料ニュース](#)
[デジタル限定](#)

最小限にして無限大の“平屋”ベース COVACO
PRICE 1,017万円～
SPECIAL CAMPAIGN このサイトだけの 限定特典

[注目情報](#)

(1)

第12904号（昭和58年3月22日第3種郵便物認可）

伊豆日

函南・軽井沢の
メガソーラー建設

知事へ反対署名提出

住民の会「災害の危険高い」



土屋副知事に提出した反対署名について説明する
吉原会長（右）ら＝県庁（提供写真）

函南町軽井沢メガソーラーに反対する会（吉原英文会長）は3日、県庁を訪れ、建設に反対する住民ら計2225人分の署名を川勝平太知事宛てに提出した。土屋優行副知事が対応し「住民の思い」

「建設地域は防災マップでも明らかなように、災害の危険が極めて高い。住民の不安や、災害の恐れが完全に払拭されない限り、許可はしないでしょう」とした。「住民の生命、身体、財産などに影響がある情報は業者任せにせず、情報公開法を適正に運用し、情報を公開（発信）するよう、函南町に指導してほしい」とも申し添えた。

丹那、軽井沢地区の住民や小学生を持つ保護者らも同行し、児童が書いた手紙も一緒に渡した。同会は「業者が建設を断念するまで、署名活動を続ける」としている。

町によると同地区の大規模太陽光発電（メガソーラー）計画は敷

地面積65ヘクタール、太陽光パネル10万2000枚を設置し、20年間にわたり売電する民間事業という。

とびっきり！しずおか 特集 15 分（静岡朝日テレビ 2019 年 7 月 5 日放送）



おはよう静岡「函南町「メガソーラー」県が開発許可」 (NHK2019 年 7 月 11 日放送)



FRONT zero「メガソーラー反対集会」 (Daiichi-TV 2019 年 7 月 14 日放送)



函南・軽井沢地区
メガソーラー

仁科町長「不同意貫く」

全協で方針強調、理解訴え

函南町議会は19日、全員協議会を町役場で開いた。都内の事業者が軽井沢地区で計画を進める大規模太陽光発電施設（メガソーラー）を議題とし、町がこれまでの経緯と今後について方針を説明。林地など寧な説明を求めているが「状況が変わって8日付で県が許可決定したのに対し、仁科町世志町長は「不同意を貫く」と明言し、改めて町長としての立場と姿勢を強調した。

全協終了後、取材に応じた仁科町長は、9日に、副町長と担当課の部課長が県を訪れ、許可条件の説明を受けると共に、「不同意の意思決定は変わらない」と訴えた、と説明した。

仁科町長は「町議会、区長会、町民の皆さんが、共有の情報の下で町の姿勢にご理解をいただくと、極めて大事であると考えている。今後、法に対しては住民パワーも必要になる」と述べ、全協では「議会としても、町の姿勢に理解をしてもらいたい」と伝えた、とも語った。

同事業については、事業者から2018年10月31日付で許可申請が出され、町は5月に慎重審議を求める意見書を県に、土地利用事前協議に基づく「不同意決定」を事業者と、県に提出している。

県が積み上げ
培ってきた仕
職の高さを評
瀬英樹社長
十月の中で身
が何にも
である」と
望みがあれば
考えだ。
【曜日掲載】

ル=izu@izu-np.co.jp>

石の江が合経水麓がのしし夏下を後一宝出スこ殿ル目78が

伊豆日日新聞

令和元年（2019年）7月30日 （火曜日） 日

仁科町長に不同意の姿勢を貴くよう求める陳情書を提出する鈴木組合長（右）＝函南町役場

函南・軽井沢
メガソーラー

柿沢川
治水組合 町と議会へ陳情、請願

区長ら「不同意」訴え

伊豆の国市、函南町を流れる柿沢川流域の5区長らでつくる、柿沢川治水組合（鈴木平一郎組合長）は29日、同町と町議会に対し、都内の事業者が同町軽井沢地区で計画を進める大規模太陽光発電施設（メガソーラー）に関する「陳情書」と「請願書」を、それぞれ提出した。

仁科町長 「区長会と同一歩調で」

中野議長 「9月議会で慎重審議」

仁科喜世志町長宛て 受けた。受けた。受けた。区長会と一緒に歩調をの陳情書は「町で不同 仁科町長は「治水域の そろえて進めていきたく意の姿勢を貴くとも 皆さんからの陳情で、 い」と話した。に、住民の安心安全を 重さを実感している。 議会への請願書では確保するために、しっ すでに示している不同 「議会で、事業についかりとした対応」を求 意の姿勢を貴き、議会、 て不同意とする決議

を受けている。
受けた中野博議長は「住民の安心安全が第一と考える。9月議会で委員会に付託し、慎重審議したい。函南町全体としての流れになつていけば良い」と答えた。

伊豆日日新
伊豆の国市三福191
〒410-2321
電話 0558 (76) 476
FAX 0558 (76) 472
伊豆新聞本社
〒414-0054
伊東市鎌田1290-
電話 0557 (36) 123
伊豆新聞ニュースサイ
http://izu-np.co.jp

第○第二段ボール株式会社
本社 伊豆新聞本社
〒414-0054
伊東市鎌田1290-
電話 0557 (36) 123
平井 芳雄
代表取締役社長
〒414-0054
伊東市鎌田1290-
電話 0557 (36) 123

(1) 第12931号 (昭和58年3月22日第3種郵便物認可)

伊豆日日新聞

JR広告代理店 朝日工芸社
看板 ネオン 標識
伊豆の国市御門65の3
TEL0558-76-1553 FAX0558-76-1510

きょうの総合社会面(3面)
下田ロープウェイ
新装、きょう営業再開

伊豆日日新聞
〒410-2321 伊豆の国市三権191-1
電話 0558(76)4760 FAX0558(76)4725
伊豆新聞本社
〒414-0054 伊東市鎌田1290-6 電話 0557(36)1234
伊豆新聞ニュースサイト <http://izu-np.co.jp/>

6を9人分の軽井沢メガソーラー反対署名と共に陳情書を仁科町長に手渡す(左から)函南町役場

「町発電調和条例の適用を」

陳情書は「住民の不安を一日でも早く払拭するため、町長として『町自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例』施行(10月1日)と同時に、同条例に基づき届け出を(事業者)に求めてほしい」「町長は不同意、つまり建設に反対(阻止)する意思があるのだから、町民に『建設に反対する』旨を明確に伝えて不安を解消してほしい」としている。併せて町の適切な情報公開の徹底も求めた。

軽井沢区では7月、函南町議会にも「メガソーラー建設計画に

函南町の軽井沢地区で、都内の事業者が計画を進める大規模太陽光発電施設(メガソーラー)について、地元である軽井沢区の渡辺一英区長(49)と、ダイヤランドの吉原英文区長(57)が31日、町に対し、連名による「陳情書」を提出した。町民らが寄せた計6259人分(30日現在)の「軽井沢メガソーラー反対」署名を添え、建設阻止に向けた町条例の適用と、仁科喜世志町長が反対姿勢をより明確にすることを求めた。

函南メガソーラー

軽井沢区
ダイヤランド 署名
6259人、町に陳情

「反対姿勢 明確に」

対する、議会の反対決議を求め、陳情書を提出した。

（23） **地域 東**

令和元年(2019年)8月7日（水曜日）

湧水

函南町軽井沢地区で進む大規模太陽光発電所

間発電量は5千万瓩時以上。山間地に位置する建設予定地の下流域には、丹那小や住宅などが並ぶ。

（メガソーラー）建設計画をめぐり、地域住民を中心とした反対運動が広がっている。土砂災害の危険性が高まることが主な理由で、町も事業者に対して「不同意」の意思を示している。ただ、7月に県の林地開発許可が下りるなど、計画は着実に進行している。今後の動向を注視したい。

計画は事業区域面積65畝に太陽光パネル10万200枚を設置し、想定年

住民らは山林伐採によ

つて保水力が低下すること、土砂崩れや土石流など災害の危険が高まると指摘する。住民団体「函南町軽井沢メガソーラーに反対する会」の吉原英文代表は「事業者は住民への十分な説明をしていない。そうした状況の中で事業が進められている」と不信感をあらわにする。

事業推進によって、景観破壊を懸念する声も

函南・軽井沢のメガソーラー計画

業者に明確な対応要求を

挙がっている。地元の観光関係者は「メガソーラーは田園風景にそぐわず、丹那のイメージを損ねないか心配。農村を目当てに訪れた観光客はどう思うか」と不安を隠さない。

同会が6月の発足以来続けている署名活動では、3日現在で約7千人分の反対署名が集まった。町や町議会には地元住民から陳情書、請願書が寄せられているという。

ただ「不同意の姿勢を貫く」とする町が、事業に対してどこまで影響力を発揮できるかは不透明

だ。住民の間では、景観や環境との調和が取れないければ再生可能エネルギーの発電事業を認めない町条例の適用を求める声もあるが、町は取材に対し、10月1日施行の同条例を遡及（そきゅう）的に適用するのは困難との見解を示した。

太陽光発電は国策として推進されている事業だが、住民の安全が大前提であるべきだ。住民の間には不安が広がっている以上、県や町も事業者に対して明確な説明と対応を求める責任がある。

（三島支局・仲瀬駿介）

伊

(1) 第12943号 (昭和58年3月22日第3種郵便物認可)

函南メガソーラー

「条例適用難しい」なぜ？

軽井沢区と町に質問状提出 ダイヤランド

函南町の軽井沢地区で、都内の事業者が計画を進めている大規模太陽光発電施設（メガソーラー）について、地元軽井沢区と町に質問状を提出し、今月末までに文書での回答を求めた。

この日は渡辺区長ほか、区の役員ら7人が町役場を訪れた。渡辺区長は「軽井沢メガソーラー建設計画について仁科町長は『10月1日施行の条例適用が難しい』と新聞などで説明しているが、なぜ条例の適用が難しいのか住民はその意味が分からず困惑している」と、仁科喜世志町長に質問状を手渡した。質問状を渡す渡辺区長（左）と函南町役場

容は「条例を遡及（そきゅう）できない」という町の見解を具体的に求めた。仁科町長は「質問を文書で回答する」と応えた。

渡辺区長は「質問の回答を元に、今後の区の方針性を検討するとともに、町内の各区とも連携して反対運動を広げていきたい」と語った。軽井沢区とダイヤランドは先月末、建設阻止に向けた町条例の適用などを求めた連名による「陳情書」を町に提出している。

函南でメガソーラー反対集会

住民「条例適用は可能」

函南町軽井沢の大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設計画に反対する住民集会が18日、町農村環境改善センターで開かれた。事業に対し発電設備の設置と発電事業に関する町への届け出を求め、10月1日施行の町条例について、住民グループ「函南町のメガソーラーを考える会」のメンバーが「十分適用できる」と訴えた。

同条例が適用されると事業者は事業計画について町長の同意を得なければならない。不同意になれば固定買い取り制度に基づく売電許可が取り消される可能性もある。ただ、県は7月に同事業にかかる林地開発を条件付きで許可し、町は「遡及（そく及）する」という。

同グループは住民集会で「林地開発と設備の設置、発電事業は別」とし、10月1日の時点で設置工事が始まっているならば条例の適用は可能との見解。届け出を事業者に求めるかどうかについては「（仁科喜世志）町長次第」と述べた。

同事業は山間地の65畝に太陽光パネル10万2000枚を設置する計画。町は条例の適用に関する考えについて、地元住民に文書で回答するとしている。

役員「条例適用は可能」

住民が2回目の集会

函南町で開いた。住民約100人が参加。都内の事業者が軽井沢地区で計画を進めている大規模太陽光発電施設（メガソーラー）について、同会役員の渡辺憲章さん（64）＝元田方農業高校校長＝が、「事業者による住民対策の実態と条例制定に至る疑問」について話をした。

軽井沢区の渡辺一英区長（49）は「先月の区民集会でメガソーラー計画に対し区として反対する決議をした。皆さんと共に頑張りたい」とあいさつ。現在までの経緯説明に強く訴えた。

「情報公開請求で得た町の条例制定までの資料を見ると、60日前までの届け出を削るなど条例の内容が5月末に不自然に大きく変更された」と述べ、「その結果、『条例を遡及（そく及）できない』という町長の根拠として利用されているが、条例適用は可能である。町長が条例適用することで、FIT（固定価格買い取り制度）法と組み合わせて、建設を阻止できる」と力強く訴えた。

函南町のメガソーラー回集会（軽井沢区、ダンターで開いた。住民約100人が参加。都内の事業者が軽井沢地区で計画を進めている大規模太陽光発電施設（メガソーラー）について、同会役員の渡辺憲章さん（64）＝元田方農業高校校長＝が、「事業者による住民対策の実態と条例制定に至る疑問」について話をした。

軽井沢区の渡辺一英区長（49）は「先月の区民集会でメガソーラー計画に対し区として反対する決議をした。皆さんと共に頑張りたい」とあいさつ。現在までの経緯説明に強く訴えた。

伊豆日日新聞

令和元年（2019年）8月20日（火曜日）（4）



宮崎森林保全課長（左）に上申書を手渡す
反対住民の代表ら（県庁提供写真）

函南メガソーラー

知事に許可取り消し要望

反対住民が上申書提出

函南町の軽井沢地区（メガソーラー）を計19日に県庁を訪ね、川上書」を提出した。で、都内の事業者が大画していることを受勝平太知事宛てに「上申書」は、林地開発規模太陽光発電施設に反対する住民らが

許可決定（7月8日付）について「判断に供するため、部下担当職員が作成した『林地開発調査』の重要部分の記載に、重大な誤りがある」とした上で「再考の上、許可を取り消し、不許可決定をしてほしい」と求めている。

地元軽井沢区の渡辺一英区長らが訪れ、宮崎和之・森林保全課長に手渡した。宮崎課長は事実関係に言及した上で「真摯（しんし）に受け止めてきちんと検討し、報告したい」と応えた。

反対住民らは「住ん

地元軽井沢区でいる人たちの命が懸かっている問題。ぜひ、川勝知事には現場に足を運んで見てもらい、住民の声を聞いてもらった上で再考をお願いしたい」と話した。



田方・三島

ワイド版

TAGATA
MISHIMA
WIDE

函南町「条例適用できず」

いと判断した。事業者は、各地発電とは別に屋上に設置出来ることはきき、事業が強制力なく、事業を実施する際に町の同意を得なければならぬとする規定も用いてきた」とした。

一方、住民側は条例が定める事業は「発電設備の設置、同設備による発電」であり、これららの事業を行うには、町への届け出が必要と指摘した。現在まで設置工事が始まっていないため、「条例の適用及ききもう適用はできない」と、町側は断言した。

町側は「条例の適用は間違えた解釈だ」と訴えた。今後、井護と相談し、町条例に関する各機関を提出する方針。

（三島支局・仲瀬毅介）

メガソーラー住民質問状に回答
「条例、遡及適用できない」

函南町

函南町軽井沢地区で大規模太陽光発電所を求める方針を示し（メガソーラー）の建た。に事業者に対し届け出ていないのに、なぜ謝及が問題になるのか」を旨とする質問状を、

反対住民らは13日、仁科喜田志町長宛てに「(10月1日施行の)条例適用がなぜ困難か」「事業者は条例に定義する事業に着手し検討していく」という。

きたい」とする見解を改めて示し、理由について「町は、法令の規定に基く許認可などの申請口、または届け出口をもつて『事業を実施しようとするとき』と判断しているため」と説明した。

町は今回の回答について「(町の顧問)弁護士に相談し作成したと述べ、条例を基

函南・軽井沢メガソーラー計画

町が環境コンサル活用へ

県アセスメント条例
「対象事業になる」

函南町駐在所地区で大規模太陽光発電所（メガソーラー）の建設が計画されている問題で、町は先日開催した町議会9月定例会で今後の対応について説明した。今春の改正により環境アセスメント適用範囲が広がった際「環境影響評価（アセスメント）条例」施行規則について（事業の対象になること）として「特別な場合から助言してもらえコンサルタントの体制を構築する」ため、関市、森を本定例会に提出の町事案に計上したと明かした。

理由については「月一般的に1年半」
「手続の中に、町の」と説明した。
県知事の発言書提出
現在状況に關して
は「一事一地について
県と町が共有
的に行う事業が事業
地に入っている状況
は、（県の）林地開発
からの富貴の動きは
ない。現地では開発目
的の事業が事業地に入
っている状況は、（県の）

仁科喜世恵町長は「住民活動でも大きな動きが出ています。現場を注視し、把握すると同時に、開発許可が降りたの現状報告を含めて、町の考えを週に再度飲みたい」と述べた。

長沢務氏の一般質問に答えた。

特別委設置を可決

特別委設置を可決
町議会開会 請願2件を付託

は約五、六分で、なるべく早い段階での依頼を見込んでゐる。また、町議選でセスマントにかかる筆までの期間を、早くて９カ

県議会議員が月定額を以ての割合、会期を以ての割合、設置にいて、全会一致で決めた。建設反対を訴ふる地籍井沢区の「調査部」、柿沢は、井沢沢マカソーラー建設計画に関する請

願を審査するのが口実的。地方が提出した陳願では、計画に対する議會での反対決議などを求めている。定員は議長を除く議員15人で、委員長に馬淵正朗氏、副委員長に橋本淳史氏を選任した。

ーラー計画や町の受動喫煙対策強化、教育などについてたまたした。

伊豆日日新聞

伊豆日日新聞

伊豆の国市三福191-1
〒410-2321
電話 0558(76)4760
FAX 0558(76)4725

伊豆新聞本社
〒414-0054
伊東市鎌田1290-6
電話 0557(36)1234

伊豆新聞ニュースサイト
http://izuhp.co.jp/

塗装・え工事承ります
材料屋だから安心価格・適切な材料のご提案
有梅原塗料店
お電話ください
03-5621-1100
03-5621-1101
03-5621-1102

県 静岡新聞 2019 年 9 月 11 日版

函南のメガソーラー計画

町議会も反対決議へ

函南町軽井沢の大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設計画を巡り、同町議会は10日、計画反対の決議を求める地元住民らの請願2件について特別委員会

で審議し、計画に対し「不同意、反対」の特別委員は中野博議長を除く全町議15人で構成し、「リスクの低い開発行為には同意できない」「住民の不安を払拭（ふっしょく）できない状況にない」などの意見が挙がった。町

定例会で改めて採決する状況にない。町定例会で改めて採決

た上で、計画への不同意・反対の決議文を作成する方針。請願書は柿沢川流域5地区の住民代表による治水組合と、地元の軽井沢区がそれぞれ提出していた。

き、歳入歳出それぞれ2億5500万円を追加する本年度一般会計補正予算案など21議案を原案通り可決した。町教育委員に小永井博

富土市18年度財政健全性は維持
一般会計決算案
富土市は10日、20年度給付収入の増加に
18年度決算案を市議より個人市民税が1.1%増の14.9億86
24議案を上程

函南・メガソーラーで町議会特別委員会

函南町軽井沢地区で
大規模太陽光発電所
(メガソーラー)の建
設が計画されている問
題を受け、町議会9月
定例会は10日、設置し
た特別委員会(軽井沢
メガソーラー建設計画

検討委員会」を町役場で開いた。建設反対を訴える地元軽井沢区の「讀願書」、柿沢川治水組合による讀願など2件について審議し、「議會での反対と「不同意」とする決議を採

、軽井沢区の
あつた「町条例
10月1日」と同
業者へ適用する
町長に要請を「
分については、
とした。

特別委員会は軽井沢メガソーラー建設計画に関する請願を審査するのが目的。今後、開会中の定例会本会議で予定している委員長報告を受け、採決する。

西南町議会

函南町議会9月定例会は10日、湯ヶトピア
かなみ改修（今秋を

予定)に伴う工事請負費、環境影響評価方法書点検業務委託など2億5500万円を追加する、本年度一般会計補正予算第21議案とした。

2019.0911
伊豆日日新聞

「議会での反対」「不同意」請願

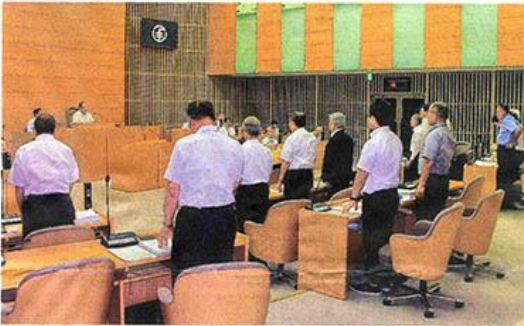
函南・メガソーラー

町議会、全会一致で採択

会期中に
決議文報告

函南町議会9月定例会は13日、軽井沢地区で大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設が計画されている問題を受け、設置した特別委員会に付託された請願2件についての審査結果を報告した。特別委で採択した「議会での反対」「不同意」決議文について採決し、賛成採択した。今後、反対成全員（起立全員）で、不同意の決議文を作る見通し。

請願2件は、軽井沢区と柿沢川治水組合から出され、いずれも建設反対を訴えていた。特別委で「議会での反対」「不同意」を採択したが、同一趣旨と見なし、一括審査。採決では中野博議長を除く町議15人が賛成した。一方、軽井沢区の請願書にあった「町条例施行（10月1日）と同時に事業者へ適用するよう、町長に要請を求める」項目については賛成少数で不採択とした。



町議全員が反対・不同意決議に賛成した請願の採決
＝函南町役場議場

メガソーラー計画で函南町議会 反対、不同意決議文作成へ

函南町議会9月定例会は13日、本会議を開いた。同町軽井沢の大規模太陽光発電所（メガソーラー）の建設計画を巡り、議会として「反対、不同意」の決議を求める住民からの請願2件を全会一致で採択した。会期中に決議文を作成する方針。事業者に計画の届け出を義務づける町条例（10月1日施行）の適用を町長に求める請願は不採択とした。請願書を提出したの5地は、柿沢川流域の5地

を固めた一方、町条例の適用については既に許認可申請が済んでいることから「遡及（そきゅう）適用は困難」との声が上がっていた。

区の住民代表による治水組合と地元の軽井沢区。町議会は10日に中野博議長を除く全15町議による特別委員会を開いて審議し、事業による災害リスクなどを考慮して計画に反対する意向

掲載料 5時～

写真提供 掲載された写真の提供は、掲載料を別途提供し、申し込みは読者ダイヤル（7月～）へ

住民団体が街頭運動

函南軽井沢のメガソーラー 町条例全面適用訴え

函南町軽井沢の大規模のメガソーラーを考慮した太陽光発電所（メガソーラー）建設計画に同意なしに発電設備の反対する住民団体「町設置や発電事業を行え

軽井沢区のメガソーラー建設計画に対し、町条例の全面適用を求めて街頭運動を実施した住民
＝函南町内

ないとする町条例（10月1日施行）の全面適用を町に求める街頭運動を同町内で実施した。

同団体は、町が条例を適用した上で事業に対する不同意を国に通知すれば、売電許可が取り消されると主張した。一方、町は条例が義務づける届け出を「法令に基づく許可申請の前まで」と

事務局長の吉原英文（ダイヤランド区長は「条例の一部適用は不自然。今後も全面適用を求めて声を上げていく」と話した。

成年後見支援センター開設

三島制度周知、活用へ助言

三島市は1日、市社会福祉会館に成年後見支援センターを開設する。認知症患者や知的障害者など判断能力が不十分な市民の権利保護に向け、成年後見制度の周知と活用に

Blue Anxiety

【不安な計画】

あの函南町揺るがす「危ないメガソーラー」

NHKで2005年に放映された『絶対少年』というアニメがある。物語の舞台「神風町」は静岡県函南町がモデル。作品で描かれた丹那盆地に近い軽井沢地区は、約50世帯、百数十人が住むJR熱海駅から北西に約4キロほどの山あいの集落だ。

この地区に、太陽光発電所の計画が持ち上がった。約65ヘクタールの傾斜地に約10万枚のパネルを並べる大規模なものだ。この計画に対し、反対の声が日増しに強まっている。

まず声を上げたのは南箱根ダイヤランドという別荘地の住民たちで、理由は危険だから。函南町は火山灰の積もった脆い地盤で、現場は急傾斜地だ。

1921年、丹那トンネルが崩落し、33人が死亡。24、30年にも同様の事故が発生し、事故による犠牲者は67人に上った。

大量の湧水が原因だったとされる。「あそこにメガソーラーを造るなんて、無謀な話」(地元関係者)。「絶対少年」の中でも、突如土砂崩れが起き、猫に導かれて逃げた住民が難を逃れるエピソードが出てくる。

7月14日に函南町農村環境改善センターで開かれた住民集会では、旗幟を鮮明にしていなかった軽井沢地区の区長が「お仲間に加えていただきたい」と反対を表明した。さらに函南町の仁科喜世志町長も、7月19日に行われた函南町議会で「不同意を貫く」と述べ、反対姿勢を示した。

発電所を計画したのは、不動産会社、ブルーキャピタルマネジメント(東京都港区)だ。同社の原田秀雄社長は、かつてFIELD(旧・明治建物)という不動産会社を経営。クレディ

セゾン系の一部上場企業のバックアップを受け、表参道の地上げで注目され、NFKホールディングスに食い込んでいたことでも知られる。11年に破産したが、太陽光発電業者として甦り、栃木県那須烏山市で上海電力と共に開発に加わるなど、次々にメガソーラーを手がけている。

7月の住民集会には、ブルー社の兼田可取締役と平山秀雄取締役が潜入していたことが発覚。ブルー社に対する反発は強まるばかりだ。

ところが、地元を挙げての業者への包囲網が形成されたと思いきや、住民の間で仁科町長への不信が高まっているという。

静岡県内では自治体が次々に太陽光発電を規制する条例を制定しており、函南町でも10月1日から条例が施行される。ところが、函南町は今のところ、ブルー社に条例は適用しないとしているのだ。

「ブルー社は函南町軽井沢のメガソーラーに関して、18年10月31日に静岡県東部農林事務所に森林法に基づく林地開発申請を出しています。函南町はこれをもって着手と考えられるので、条例は適用できないと言います」(地元住民)

同じ静岡県の伊東市は「着手」を「着工」と捉え、着工前なので条例はまだ適用可能と判断し、太陽光発電事業を条例違反であるとして業者名を公表、経済産業省に報告した。それに比べ、函南町の姿勢は明らかに後ろ向きだ。「不同意を貫く」と明言した仁科町長が、決して「反対」と言わないのも腑に落ちない。

「函南町は条例の制定も周辺市町村に比べて遅かった。このままでは危ないメガソーラーが完成してしまう」(住民)。仁科町長への不信は募るばかりだ。

■筆者紹介 三枝玄太郎 ジャーナリスト

メガソーラー「不同意」



中野博議長（右）、馬籠委員長（中央）から反対決議文を受け取る仁科町長＝函南町役場

函南町議会

軽井沢計画
検討委員会

「環境、景観の悪化懸念」

建設反対決議を可決

函南町議会9月定例会は4日、最終本会議を開き、委員会付託していた2018年度一般・特別会計決算認定、軽井沢地区のメガソーラー建設計画に対する反対決議や意見書など17件を原案通り可決し、閉会した。

仁科町長に文書提出
「大変重く受け止める」

反対決議は軽井沢メ
ガソーラー建設計画
検討委員会（馬籠正
委員長）が提出。「計
画では広大な森林等を伐
採し、10万枚を超える
太陽光パネルの設置が
予定されている。周辺
住民だけでなく、柿沢川
計画に対し、土地利用



伊豆日日新聞

伊豆の国市三福191-1
〒410-2321

電話 0558 (76) 4760
FAX 0558 (76) 4725

伊豆新聞本社

〒414-0054
伊東市鎌田1290-6
電話 0557 (36) 1234

伊豆新聞ニュースサイト
<http://izu-np.co.jp/>



めざします
企業の繁栄と社会への貢献

三島田方法人会

TEL 055 975 4845
FAX 055 976 0024

事前協議で『同意しない』とする審議結果を

「自転発電」疲れた
温暖化防止やエコ活動が
推進される中、伊豆半島
市立小笠原町で、児童学
校で「自転発電」の体験
学習を行った。今後は家
族とともに自転発電を
実践する「エコ生活」を
実践する。伊豆半島市
立小笠原町で、児童学
校で「自転発電」の体験
学習を行った。今後は家
族とともに自転発電を
実践する「エコ生活」を
実践する。

事業者へ通知。町議会は不同意の意思表明を強く支持し、計画に断固反対する」とした。閉会後、仁科喜世志町長に反対決議文を提出した。仁科町長は、議会の決議で、大変重く受け止める」と述べた。

メガソーラー反対決議案など可決
函南町議会定例会
函南町議会9月定例会は4日、最終本会議を開き、同町軽井沢の大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設計画を巡り、地元住民らから提出された請願に基づき同計画への反対決議案など4議案を可決し、閉会した。委

困窮がシテイプロモーションに大きく寄与している」と評価した。高橋正典（議の会）、米山享範（ふじ21）、小池智明（同）、藤田哲哉（新政富士）の各氏も登壇した。

員会付託していた2018年度の決算案13件も認定した。

機械設備工事契約案を可決
堀野・長泉新火葬場
堀野市と長泉町が堀野市今里に整備する新火葬場計画について、堀野市長泉町衛生施設組合は4日、同市内で開いた臨時会で、新火葬場の機械設備工事の契約金2億9400万円を盛り込んだ議案を賛成多数で可決した。新火葬場計画に関しては、9月13日の定例会で建築本工事と電気設備工事、火葬炉設備工事の契約に関する議案を可決している。

破断した鋼管送水管（管径90センチ、長さ約50メートル）を前に職員の説明を受ける川勝知事（中央）＝函南町＝丹那



「豪雨続けば狩野川危なかった」

川勝知事は「かと言へば二度と繰り返してはいって、狩野川水系がやけない」と語った。町道の崩落により柿地で水害が起こった。田川を水源にした駿豆水路が重要か、ということだ。優先順位があるが、放水路は整備の方向に向けて、必要とあればやらなければいけぬ。狩野川台風のような悲惨なことは、申し訳なかったと述

伊豆半島に上陸し、猛烈な風雨で各地に大きな爪痕を残した台風19号の被災地を20日、川勝平太知事が視察した。熱海市と函南町の一部で大規模な断水被害をもたした、県営駿豆水路の送水管破断現場で取材に応じた川勝知事は「1958年の狩野川台風と匹敵の可能性」とされた今回の19号の被害について「幸いにして決壊は免れたが、もしもう1日、あのような豪雨が続けば、狩野川も危なかった」との認識を示した。

台風19号被災 「放水路いかに重要か」 駿豆水路 川勝知事、現場を視察

川勝知事「基本的には反対」 函南のメガソーラー計画

函南町畔井沢地区で計画される大規模太陽光発電施設（メガソーラー）について、川勝平太知事は20日、「基本的には反対。危機管理の観点から理の観点からも問題で、地域の安全にメガソーラーは大きな脅威とならう」と語った。川勝知事は「国にも働き掛け、森林や環境保護、地域住民の意向に、変えないといけない」との考えを示した。その上で「伊豆半島では伊東や函南、河津も含め、利益本位で建

べた。一方で、災害応援の連携や昼夜の復旧などにより、当初見込みより2・5日早く送きた」と語った。水が再開されたことにも触れ「早い復旧にも尽くした。今回は教訓に、互いに知恵を出し合い、熱海、函南、水の都といわれる三島、沼津、さらに県、場合によっては国と協力して、この地域が水をうまく使っている」と言われるようにしていきたい」と語った。

伊豆日日新聞

伊豆日日新聞

伊豆の国市三浦191-1
〒410-2321
電話 0558 (76) 4760
FAX 0558 (76) 4725

伊豆新聞本社
〒414-0054
伊東市鎌田1290-6
電話 0557 (36) 1234

伊豆新聞ニュースサイト
<http://izu-np.co.jp/>

包装の合理化
トータルコストダウンに役立つ
第1段階ボール株式会社
本社 三島市南一丁目1番1号
電話 0558-998-890
三島市東三島
電話 0558-998-890

水が再開されたことにも触れ「早い復旧にも尽くした。今回は教訓に、互いに知恵を出し合い、熱海、函南、水の都といわれる三島、沼津、さらに県、場合によっては国と協力して、この地域が水をうまく使っている」と言われるようにしていきたい」と語った。

戸口

乗介

星早

(第三種郵便物認可)



台風被災地視察

土砂崩れで送水管が破断した現場を視察する川勝知事
〓 函南町丹那

函南メガソーラー

知事「基本的に反対」

法規制、国へ働きかけ

川勝平太知事は20日、台風19号の土砂崩れで送水管が破断した函南町丹那の復旧工事現場を視察し、近くの同町軽井沢で計画が浮上している大規模太陽光発電所(メガソーラー)の建設について「基本的に反対」と述べた。その上で森林開発に関する法律を改正し行政が厳しい規制を行えるよう国に働きかける必要性を示した。

メガソーラーの危険(高まる)として地元住民性について「土砂崩れが起きると水も海もやられる。地域の安全に脅威になる」と語り、近隣市町でも計画が進む現状に触れながら「(事業者の)利益本位でなされている」と指摘した。県として環境規制の厳格化を進める一方、国の法律が「規制よりも許す方向になっている」とし、地域住民の意向に沿う形で「地域のトップや行政機関が規制を行えるよう変えないといけない」と述べた。

計画は、山の傾斜地も含む事業区域面積65畝に太陽光パネル10万200枚を設置する。下流域に町立丹那小や住宅地などがあり、土砂崩れなどの危険性が電所(メガソーラー)建設計画に町条例の適用は困難とし、「中止させるアイデアは現段階でない」と述べた。住民からは、町長の同意なしに発電設備の設置・発電事業を行えないとする条例の適用を求める声が上がった。町は「既に許認可申請が済んでいることから遡及(そきゅう)適用は不可能」とする従来の回答を繰り返して平行線を繰り返した。函南町の仁科喜世志町長と地域住民が町政について意見を交わす懇談会が20日、同町アイランドで開かれた。仁科町長は同町軽井沢の大規模太陽光発電所(メガソーラー)計画について町条例の適用は困難とし、「中止させるアイデアは現段階でない」と述べた。住民からは、町長の同意なしに発電設備の設置・発電事業を行えないとする条例の適用を求める声が上がった。町は「既に許認可申請が済んでいることから遡及(そきゅう)適用は不可能」とする従来の回答を繰り返して平行線を繰り返した。

町民が建設予定地視察 (伊豆日日新聞 2019年10月24日版)



地元の住民の案内で建設計画地の一角を見学する町民ら＝函南町軽井沢

函南メガソーラー計画

町民が建設予定地視察

函南町軽井沢で計画された大規模太陽光発電所(メガソーラー)の建設予定地で23日、町民らが現場見学を行った。地元で詳しい住民が案内し、開発地域の北側から順に、調整池の位置を確認したり、高台に移動して一帯が見渡せるエリアを眺めたりした。約10人が参加し、3Dの画像を使うことで、急斜面での造成などを確認する場面もあった。参加者から「台風でも崩れる危険な山間地で、いかに広大な太陽光開発かが分かった」「こんな場所に造るなんて考えられない」「どんな計画で、必要ない」といった感想が聞かれた。計画は敷地面積65畝、太陽光パネル10万200枚を設置し、20年間にわたり売電する民間事業で、出力は4万キロワット。

函南・軽井沢
メガソーラー

反対署名1万3000人

考える会が知事宛て提出

函南町軽井沢メガソーラーを考える会（山口雅之共同代表）は25日、県庁を訪ね、建設書も手渡し「県として反対する住民から集まった約1万3千人分の署名を川勝平太知事宛てに提出した。渡辺 得る努力をするよう、指導してほしい」と訴えた。

難波喬司副知事は、18日付で、地元への説明を尽くすよう求める行政指導文書を事業者に提出した、と明らかにした上で「私も反対の立場だ。皆さんの活動は、極めて重みがある。法律の範囲で、できる限りのことをしたい」と応え「（町条例には）着手のことが書いていないのがポイントになると思う」などと述べた。住民らは環境影響評価に厳しい立場で指導するよう訴え、町が「条例を書き換えたい」（同会）という経緯にも触れた上で「事業者にも触れた上で、事業者にも有利な解釈をしている」「先日の会合で町長は『計画を止めるアイデアがない』とはっきり言った。とても失望した」などと語った。

函南メガソーラー
署名1.3万人分提出

反対団体、副知事に
提出した。

と、建設に反対する約1万3千人分の署名を提出した。

函南町軽井沢地区に計画された大規模太陽光発電所（メガソーラー）の建設に反対する住民団体「函南町軽井沢メガソーラーを考える会」（山口雅之共同代表）は25日、県庁に難波喬司副知事を訪ね、環境影響評価（アセスメント）の厳格な審査を求める陳情書を出した。

計画されたメガソーラーは県条例で環境アセスの対象になる。陳情書は台風被害を踏まえ、下流域を含む広範囲で環境アセスを実施し、事業者への指導を徹底するよう求めた。

山口代表は提出後の記者会見で、建設を中止させるのは困難だとする同町の対応を批判し、仁科喜世志町長の解職請求（リコール）について「他に方法がないなら問題を打開する選択肢になる」と述べた。



中野博議長（右）に請願書を手渡す渡辺区長＝函南町役場

軽井沢メガソーラー計画

「町条例適用 審議を」

地元区 函南議会に請願書提出

函南町の軽井沢地区で、都内の事業者が計画を進める大規模太陽光発電施設（メガソーラー）について、地元の軽井沢区の渡辺一英区長（49）とダイヤランド区の吉原英文区長（58）が5日、町議会に対し連名の「請願書」を提出した。建設阻止に向けた町条例の適用について町議会の審議を求めた。

両区長は「町議会が町長に軽井沢メガソーラー設置予定場所が抑制区域内であるので、事業者に対し、10月1日施行の条例により、同発電設備設置は同意しないとする決定をすることを強く議決してほしい」と請願した。

西区は「議員が法律の専門家による条例の適応解釈をきちんと受ける場を設ける他、町と議会と住民が話し合う場も設けてほしい」と話している。

浜松選抜が優勝

全国中学野球
伊豆で準決、決勝
「第19回全国中学生
都道府県対抗野球大会
イン伊豆」（日本中学
生野球連盟主催・主
管）は最終日の5日、
準決勝と決勝戦が伊豆
市の伊豆志太スタジア
ムで行われた。静岡県
代表の浜松選抜が決
勝で岩手県選抜を破
り、優勝した。

準決勝は浜松が新潟
県選抜を5-0、岩手
が氷見市立北部中（富
山県）を5-3で下し
た。決勝戦は浜松が初
回に2点を先制し、二
回にも1点を追加。3
回には全国38都道
大会には全国38都道
府県代表の48チームが
出場し、2日から熱戦
を展開した。

8 面

伊豆に子育て・親育で
奮闘記、いわいとしおさんコラム



4462世帯分の署名を持参した鈴木会長（左から2人目）ら＝函南町役場

軽井沢区の反対意向賛同

メガソーラー計画 函南町区長会署名提出

函南町軽井沢の大規模（ソーラー）の建設計画
模太陽光発電所（メガ）を巡り、町区長会は7

日、計画に反対する軽井沢区の意向に賛同する署名4462世帯分を町に提出した。町は署名を県に届ける方針。

署名活動は9月から10月末まで軽井沢区を除く34区約1万世帯を対象に実施。「多くの町民が軽井沢区の反対に賛同していることを理解し、町として尽力してほしい」「国や県に対して町民の声を伝え、計画反対の要望を」との提言もまとめた。

町役場で鈴木昭男会長から署名を受け取った仁科喜世志町長は「台風の復旧作業もある中

でこれだけの署名を集めていただいた。しっかりと受け止めて対応する」と述べた。

同事業は山間地65軒に太陽光パネル10万200枚を設置する計画。下流域には町立丹那小などがあり、地元住民らが反対運動を展開している。

情報ナビ

【清水町】第49回清水町芸術発表会の部 10日9時45分～16時半、町地域交流センター。町内の32団体が合唱、楽器演奏、日本舞踊、ダンスなどの各部門に分かれ、日頃の練習の成果を披露する。後面や園芸品が並ぶ「展示の部」とも

(1)

第13027号（昭和58年3月22日第3種郵便物認可）

伊豆



仁科喜世志町長(左)に提言を手渡す鈴木区長会長
＝函南町役場

函南・軽井沢
メガソーラー

町区長会が反対に賛同

4462世帯の署名添え町に提言

函南町の軽井沢地区で、都内の事業者が計画を進める大規模太陽光発電施設（メガソーラー）について、町区長会は町全体の問題と捉え、地元・軽井沢区の反対の意向に賛同することを決定した。

7日、鈴木昭男区長（69）や区長会副会長の4人が町役場を訪れ、区長会の決定に賛同する町民世帯代表者の署名4462人分を添えて、同町に提言した。

提言では①軽井沢区

の反対に対し、多くの町民が賛同していることを理解し、町も計画反対に向け力を尽くしてほしい②軽井沢区や署名した町民の民意に応えるため、国や県に町民の声を伝え、計画反対の要望をしてほしいと求めている。

区長会の提言に軽井沢区の渡辺一英区長（49）は「自分たちは町条例の適用を掲げ運動している。区長会でも運動を全面的に支援してほしい」と語った。

(1)

第13033号 (昭和58年3月22日第3種)

難波副知事に軽井沢メガソーラー事業への要望書を
手渡す仁科町長（左）＝県庁（提供写真）



函南・軽井沢
メガソーラー

町の反対要望県に提出

難波副知事「地域全体の意向大切」

函南町の仁科喜世志書を提出した。

町長は13日、県庁を訪れて難波副知事と面会した。仁科町長は、町区長会から提出された軽井沢メガソーラー計画に関する署名の写し（4462人分）を携えた上で、町の要望

要望書は「林地開発許可時に付された15の条件を順守するよう、事業者へ指導徹底を」

「地域の実情に合った厳しい規制が必要で、その権限を地方自治体が発揮できるよう、国への働き掛けを」と求めた。その上で仁科町長は「議会も反対し、町も不同意、反対で、住民の意思も反対。現状は『オール反対』の中で進んでいる。ぜひこうした状況に鑑みてほしい」と述べた。

仁科町長は台風19号被害を踏まえ、治山治水の重要性も訴えた。これらに対し難波副知事は「知事も基本的には反対している。今後もし地域全体で反対の意向を示していくことが大切」などと答えた。

不適切な事務処理

函南町が職員ら4人処分

規則改正

函南町は27日、都市計画課の条例施行規則の一部改正に当たり、「不適切な事務処理があった」として、担当職員と管理監督者らを懲戒処分にした。担当課の職員2人を戒告、監督管理の町幹部2人

を文書による嚴重注意とした。

町によると10月施行

の「町自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例施行規則」の一部改正の際に、本来、8月30日以降を決裁日と

すべきところ、同27日を決裁日として改正規則を告示していた。住民の指摘で分かった。

町は原因について「担当への指示が不明確で伝わっていなかったため、起案日、決裁日を誤った」などと説明。今後の対応について「現在の規則を一度廃止し、新たに決裁を受け、事務手続きを確認の上で改めて告示を実施した」とした。

町は「職員の信用失墜行為であり、改めて公務員の責務を肝に銘じて再発防止に努める」と述べた。

函南町 丹那で町長と語る懇談会 メガソーラーに意見

住民の声を町政に反映させる、まちづくりの小学校区単位で開くブロック懇談会「町長と語ろう」が11月まで



住民が町長と率直に意見を交わした「まちづくりブロック懇談会」＝函南町丹那の農村環境改善センター

改善センターで丹那小学校区向けに実施した。地元区長ら代表が出席し、率直に発言した。軽井沢地区の大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設計画に関する意見が相次ぎ、町の姿勢を厳しく批判するひと幕もあった。

仁科町長は、メガソーラーをはじめ道路の補修や鳥獣被害の対応などを例に挙げつつ、「すぐできること、長期的や組織的に考えていけないといけないこと、それぞれの意見、提言をしっかりと検証していく」と語った。

同ブロック懇談会は函南、桑村、西、東、丹那小学校区で開いた。

「森を守れ」移住者からうねり

函南・別荘地近くのメガソーラー計画



渡辺憲章さん（手前）の案内でメガソーラー計画地を見る見学会参加者＝函南町軽井沢

計画に反対 地元を後押し

函南町の別荘地「南箱根ダイヤランド」の居住者が、地元で計画されているメガソーラーの反対運動に立ち上がった。都会から移住してきた人たちの「第2の古里」を守る熱意が、計画予定地の住民や声を上げてくつった町民の背中を押し、大きなうねりになっている。

11月16日、函南町の丹那盆地に連なる軽井沢地区の山中を20人ほどの男女が歩いた。参加者の中心は盆地の南側斜面に広がるダイヤランドに住む人たち。案内するのは地元で生まれ育つ

マネジメント社（東京）が進めている。この日は町内会組織の軽井沢区とダイヤランド区が共同で開いた初の現地見学会だった。渡辺さんは「大雨が降ると沢から何日も水が流れ続ける。森が失われれば雨は一気に流れ下る」と伐採される森の位置と周囲の地形を示しながら説明した。渡辺さんは業者からの土地買収の働きかけを拒否し



メガソーラー建設を計画する山崎建設。ふもとに丹那盆地の広さと同じ面積に及ぶ函南町八木橋一男さんがドローンで撮影

続けてきた。しかし、周囲では次々に買収や賃貸の契約が進められ、反対する地主は少数派になった。「このまま計画が進んでしまふのか。この土地を離れることも真剣に考え始めていた」という今年6月、ダイヤランド区が「メガソーラー反対」を表明。「頑張ろうと勇気をもらった」。今は反対運動の先頭に立つ。南箱根ダイヤランドは熱海と函南を結ぶ熱海道路沿いに1968年から開発された別荘地で広さは約231万平方メートル、4200区画に2800棟が建つ。芸能人や作家ら著名人の別荘があるが、近年は定住化が進み、約1千世帯約2千人が町民として暮らす。

再生可能エネルギー推進の意見も想定したが、百人を超える参加者はこそって「反対」の意思を示した。その場で区の総意として反対を表明、署名活動の開始が決まった。計画地の直下には丹那小学校と幼稚園がある。長女（8）と次女（5）を合わせる主婦鳥屋真紀さん（42）は「子どもたちの命と未来を守るのは大人たちの責任」と呼びかける。10年にこの土地で子育てをしたというIT会社社員の夫と共に東京からダイヤランドに移り住んだ。

軽井沢区でも7月21日に集会を開いた。用地をめぐる利害もあり、意思表示が難しい状況だったが、渡辺一英区長（49）は採決に踏み切った。結果は圧倒的多数で「反対」。区として反対の運動を進めることが決まった。ダイヤランド区と共に集めた署名は1万3千を超えた。町議会は10月、メガソーラー建設反対を決議。町区長会も「軽井沢区の反対の意向に賛同」を決めた。計画地から流れる柿沢川の下流では、10月の台風19号で町内の584棟が浸水などの被害を受け、土砂崩れなども155件発生した。本流の狩野川は一時氾濫危険水位に達した。駿河湾のサクラエビ不漁など海の異変も森林荒廃との関係が取りざたされている。「森を守れ」という声はさらに広が

「町長の同意義務づけ」条例 事業には適用しない方針



仁科喜世志町長

用は可能だ」と主張する。元大阪府警幹部の山口さんは13年にダイヤランドに移住。「残り人生をゆつたり」と思っていたところ問題が降ってわいたという。住民の法律家らと法的な検討を加え、条例で事業を止められると判断した。焦点は条例を適用するか否か。町長が本気で止める気があるかどうかだ。ブルキャビタルマネジメント社は、朝日新聞の取材に応じていない。（岡田和彦）

**メガソーラー
請願など付託
函南議会が開会**

函南町議会、12月定例会は2日開会し、会期を11日までとした。「函南町会計年度任用職員の給与等に関する条例の制定」など条例3件と軽井沢のメガソーラー建設計画に関する請願書は委員会に付託した。一般質問を行い、3人が登壇した。

土屋学氏は田方農業高が2021年に創立120周年を迎えるに当たり、町としての連携や支援などについて

の見解を尋ねた。町は「関係団体と協議していく」と答えた。台風19号における今後に向けた対応・対策については、「早い段階での広域避難について協議

していく」と述べ、「災害が迫った時に、町民が早めの避難行動に結びつくよう広報や出前講座などを通して周知を図りたい」などと語った。

**「条例改正考えていない」
軽井沢メガソーラーで町答弁**

函南町議会、12月定例会は4日、一般質問を行い5人が登壇した。軽井沢地区の大規模太陽光発電所（メガソーラー）計画について「条例適用が建設反対の有力な手段になりえる。改正の意思はあるか」と大庭桃子氏が指摘したのに対し、町は、条例が個人の財産について規制を行う性質を持ち、行政の中立性・公平性などに触れた上で「計画されている事業の阻止を目的に条例を改正することは考えていない」と答えた。

一方、町内に計画のメガソーラーに関連した「他の市町の条例でも、工事着手が事業着手と考えているが、町も他の市町と同様の考えに改める考えはないか」との問いに対しては、「他の市町でも着手の見解はさまざまであり、今のところ考えていない」と答えた。古村高氏への答

紙面に掲載一部を除き豆新聞デジタルサービスへきます。あります。たは「伊豆ービス」では伊豆へ電055(36)137へ。

掲載写真販売します

会
議
建
設
委
員
会
函
南
町
議
建
設
委
員
会
函
南
町
議
建
設
委
員
会

軽井沢メガソーラー建設
不同意の請願不採択

函南町の軽井沢地区で総務建設委員会（市で大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設が計画されている問題を受け、同町議会12月定例会は6日、町役場

少数で不採択とした。請願書は「事業者に対し、10月1日施行の条例により、発電設備設置は同意しないとする決定をすることを強く議決してほしい」としていた。同請願書は、11日の本会議（最終日）で採決される。

会
大
仁
支
部
に
恒
例
と
な
っ
て
い
る
活
動
の
助
成
費
も
贈
り
、
花
咲
く
伊
豆
の
国
推
進
協
議
会
と
市
が
進
め
る
「
花
と
緑
に
あ
ふ
れ
た
美
し
い
ま
ち
づ
く
り
運
動
」
に
協
力
し
た。

メ
ガ
ソ
ー
ラ
ー
建
設
阻
止
を

共
産
党
函
南
委
員
会
町
に
予
算
要
望

共
産
党
函
南
町
委
員
会
の
塚
平
育
世
委
員
長
ら
は
こ
の
ほ
ど
、
町
役
場
を
訪
れ
、
2020
年
度
予
算
編
成
に
向
け
た
要
望
書
を
仁
科
喜
世
志
町
長
に
手
渡
し
た。

要
望
は
100
0
項
目
か
ら
な
り
「
医
療
・
保
険
、
福
祉
の
充
実
」
を
は
じ
め
子
育
て
支
援
や
台
風
19
号
を
受
け
た
防
災
対
策
、
自
然
保
護
な
ど
を
掲
げ
た。
具
体
的
に
は
「
3
歳
児
未

満
の
保
育
料
を
近
隣
市
町
並
み
に
し
、
第
3
子
以
降
は
年
齢
条
件
を
付
け
ず
に
無
料
に
」
「
大
き
な
環
境
変
化
を
も
た
ら
ず
大
規
模
太
陽
光
発
電
所
（
メ
ガ
ソ
ー
ラ
ー
）
建
設
阻
止
に
あ
ら
ゆ
る
方
策
を
」
な
ど
と
要
望
し
た。

道
の
駅
、
川
の
駅
事
業
に
つ
い
て
は
「
町
民
の
声
を
反
映
さ
せ
、
在
り
方
に
つ
い
て
再
検
討
を
」
と
し
て
い
る。
塚
平
委
員
長
は
「
町
民
の
切
実
な
要
求
を
新
年
度
予
算
に
生
か
し
、
希
望
の
持
て
る
函
南
町
に
し
て
ほ
し
い
」
と
述
べ
た。



仁科町長に要望書を手渡す塚平委員長ら
（函南町役場提供写真）

(1)

第13064号 (昭和58年3月22日第3種郵便物認可)

伊 豆

函南・軽井沢
メガソーラー

「法令守り事業進めたい」

売電のトーエネック 地元住民と初の面会



地元の住民らと初めて面会し意見を交わす
トーエネックの辰巳部長(右から2人目)
＝函南町の軽井沢公民館

函南町軽井沢地区に計画の大規模太陽光発電所（メガソーラー）を巡り、完成後、20年にわたって東京電力への売電事業に携わる中部電力子会社トーエネックの担当者らが16日、同町を訪れ、初めて地元住民らと面会した。辰巳義明・エネルギー事業部長は同計画について、行政や関係機関との調整、検討が必要との認識を示した上で、「県環境アセスメント（環境影響評価）適用案件でもあり時間はかかると思うが、法令を順守しながら、今後も事業を進めていきたい」と語り、計画推進の方針を強調した。

その一方で、当初計画されていた2020年3月の運用開始については、間に合わないとの見通しを示した。同計画の事業者はブルーキャピタルマネジメント（東京都港区）で、トーエネック（名古屋市中区）は完成後、同社から譲り受けた上で売電事業を行う。敷地面積65畝、太陽光パネル10万2000枚を設置し、出力は4万キロワット。

住民への説明責任の観点から、地元が重ねてトーエネック社に面会を要望していた。出席した住民からは「ブルー社のこれまでのアプローチに対する率直な感想が多く寄せられ

「函南町の住民の命を守るために事業の撤退、中止を求める」といった声が挙がった。

メガソーラーの反対住民と面会（朝日新聞 2019 年 12 月 17 日版）

メガソーラーの 反対住民と面会

函南、売電計画の業者

函南町軽井沢地区のメガソーラー計画で16日、売電事業を予定している中部電力子会社のトーエネック（名古屋市中）の担当者が軽井沢公民館で反対派住民と初めて面会した。住民側は事業の中止を求めた。

トーエネックは開発業者のブルーキャピタルマネジメント社（東京）が約65畝の山林に太陽光パネル10万枚超を設置して建設するメガソーラー（出力4万キロワット）の完成後、発電施設を購入し東京電力に20年間にわたり売電する予定だ。トーエネックは計画に反対する軽井沢区、ダイヤランド区、函南町軽井沢メガソーラーを考える会（山口雅之代表）らの求めに応

じ、辰巳義明エネルギー事業部長と担当者が住民代表に会った。軽井沢区の渡辺一英区長（49）は「森が失われれば土砂災害に襲われ、ここで生きていけない。事業を中止し撤退して欲しい」と求めた。辰巳部長は「法令を順守し、環境アセスメントで客観的判断を得て皆さんの不安を払拭したい」と事業を進める姿勢を示した。（岡田和彦）

函南のメガソーラー計画 伊豆の国市長が反対を明言（朝日新聞 2019 年 12 月 20 日版）

函南のメガソーラー計画

伊豆の国市長が反対を明言

伊豆の国の小野登志子市長は19日、隣接する函南町の軽井沢地区で計画されているメガソーラーについて「反対」を明言した。建設に伴う森林破壊で水害の危険性が増すことなどを理由にあげている。

この日の定例会見で質問に答えた。予定地から流れる柿沢川の下流に位置する同市は、10月の台風19号で浸水。住宅や特産のイチゴ、トマトなどが甚大な被害を受けた。本流の狩野川は放水路を開放したが、一時、氾濫危険水位に達し

た。小野市長は2本目の放水路の必要性を語るなど強い危機感を示している。「森林が破壊され水害の危険性が増すことを危惧している」。小野市長は、今後、共に柿沢川治水組合の顧問を務める函南町の仁科喜世志町長と協議していく

考えを示し、「河口の沼津市から上流まで、狩野川流域治水計画に積極的に参加して欲しい」と話した。建設計画では、開発業者のブルーキャピタルマネジメント社（東京）が約65畝の山林に太陽光パネル10万枚超を設置予定（出力4万

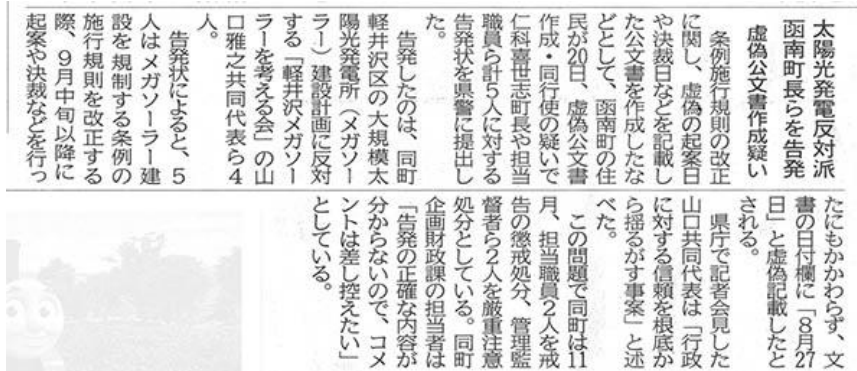
キロワット）。完成後、中部電力子会社のトーエネック（名古屋市中）が20年間、東京電力に売電する。（岡田和彦）



メガソーラーで函南町長を告発（朝日新聞 2019 年 12 月 21 日版）



太陽光発電反対派 函南町長らを告発（静岡新聞 2019 年 12 月 21 日版）



記者会見を開き県警への告発状提出について説明する山口代表（中央から県庁）



「町民の権利侵害 真相究明求む」

告発状によると、被告発人は仁科喜世志町長、佐野章夫副町長、町建設経済部の前川修部、江田朝夫都市計画課長、野沢和宏課長補佐の5人。理由については、10月1日施行の町自然環境再生可能エネルギー調和条例一部改正の際、決裁年月日の日付をさかのぼらせて8月27日と虚偽内容を記載した虚偽公文書である決裁文書を作

函南町軽井沢地区に計画されている大規模太陽光発電所（メガソーラー）を巡り、問題を迫っている町軽井沢メガソーラーを考える会（山口雅之代表）は20日、県警に対し虚偽公文書作成・同行使の疑いで告発状を提出した。

軽井沢メガソーラー考える会

虚偽公文書の作成・行使疑い 函南町長らを告発

成。さらに仁科町長については「町長欄に自分」

署して完成させた虚偽公文書である同規則を、事情を知らない職員をして町役場1階玄関前掲示板に掲示し、虚偽公文書2通を作成し、行使したとしている。

告発人は山口代表、地元軽井沢・ダイヤランド区長ら4人。住民らと共に県庁で会見した山口代表はこのま

までは私たちの知らない所で町民の権利が侵害されかねない。警察に真相を究明してもらいたい」と語り、町がこれまでにこの件に関し職員を処分した経緯についても不信感を示した。告発に対し町は「詳細を把握していないのでコメントはできない」とした。



伊豆日日新聞

伊豆の国市三福191-1

〒410-2321

電話 0558 (76) 4760

FAX 0558 (76) 4725

伊豆新聞本社

〒414-0054

伊東市鎌田1290-6

電話 0557 (36) 1234

伊豆新聞ニュースサイト

<http://izu-np.co.jp/>



めざします
一般社団法人
三島田方法人会

TEL 055 975 4845
FAX 055 976 0024

会長 平井 敬雄



最新情報は下記のウェブサイトをご覧ください。

→ <https://dialand.jp>